

2013年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター 運営委員会会議録〈確定稿〉

- 開催日時：2013年7月9日（火） 午後6時30分～8時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
- 出席委員：阿部恵子、五十嵐強、内田日出子、小嶋弘、田中紀子、松尾浩邦
＜以上6名、敬称略、五十音順＞
- 欠席委員：岩崎麻里奈、鈴木紗衣、種村明頼、安富眞理子＜以上4名、敬称略、五十音順＞
- 事務局：栗山孝一（事務局長）、丸木敦（地域福祉課長）、長山清美（コーディネーター）
篠原保之（係長）

事務局より欠席委員の報告。

1. 報 告 事 項

委員長：今年度第2回目の運営委員会を始める。

前回欠席委員より、自己紹介。

(1). 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

事務局より、5月～7月の主催事業、ホームページアクセス数、コーディネート状況、7月以降の事業予定について説明を行なう。

委員長：すべての報告に対し、意見、質問をお願いしたい。NPOに関する相談については、西東京市市民協働推進センターにつながっているのか。

事務局：今回報告の5月期・6月期の相談では、NPOに関するものは無かった。基本的には、西東京市市民協働推進センターにつないでいる。相談に関する報告の中では、相談内容の区分けについて、次回以降に行いたい。

委員長：ホームページのアクセス数が増えている。アクセスした人への対応については、現在は、どのような対応になっているのか。

事務局：コメントを送っていただいたり、メールニュース登録などをして頂かないとつながりは持てない。夏以降に西東京市社会福祉協議会としてホームページのリニューアルを進めているが、その機会に西東京ボランティア・市民活動センターのホームページも組み入れていく予定。

委員：ホームページの検索報告の中で「ボランティアのつどい」の検索が多かったのは、参加者からの問い合わせが多かったのではないかと。

事務局：ホームページへの掲載が遅かったことが原因と思われる。反省点としていきたい。「ボランティアのつどい」に関しては、たくさんの方のご協力もいただき、内容の良い「ボランティアのつどい」であったと思う。小さくまとまっていて一体感があったと思う。これまで「ボランティアのつどい」の目的を検討してきた。「ボランティアをしている人たちのネットワークづくり」と「そのことを通じての市民の方へのボランティア活動の周知」をすすめていたが、今回は「活動者のつながり」についてはよくできていたと思う。次年度以降、このつながりを続けていけば、そのことが力になって市民の方にボランティア活動を広めていけるのではないかと期待をしている。関係者の方には感謝したい。

委員：途中から実行委員会には参加しなかったが、委員会では大学生も参加して、若い方からの意見が出ていたと思う。団体同士の連携は難しいものだが、「つどい」では良くできていたと思う。若い人のアイデアを取り入れて、ボランティア参加の仕掛けを作っていないといけない。参加者も多く良かったと思う。

委員：会場を田無総合福祉センターに変更してどうなるかと思ったが、うまく活用されていたと思う。イベントは会場と内容のバランスがとれていると良い企画になると思うが、今回はバランスが良かったと思う。参加団体の一体感もあったのではないかと。最初はできるだけ多く来場者があった方が良く思っていたが、結果 200 人近くの来場者があり、会員の交流を基本にしながら、外部の方とのつながりを進めていけば力になっていくと思う。

委員：会場の変更については、良かったと思う。

委員：「ボランティアのつどい」の実施については、運営委員会でも紹介があったが、各委員に対して「参加してください」との話が無かったので、参加しなかった。運営委員として参加した方が良かったのではないかと感じている。また「ボランティアのつどい」そのものの目的が分からなかった。

事務局：運営委員会に限らず、全体として「ボランティアのつどい」でやりたいことについて、多くのことを伝えていかなくはいけなかったが、そこができていなかった。

委員：「第 11 回ボランティアのつどい」が終わってすぐに次回の実行委員会が行われるとのこと。力を入れている事業だと感じている。

委員長：コーディネート報告で「ボランティアの登録者数」が示されているが、ボランティア活動団体として、今後の方向性やボランティアの活動をどう広げていくかについて考えていくことは大事だと思う。

委員：ホームページへのアクセスの方法について伺いたい。「参加したい」という項目でのアクセスが多いと思うが、その人達はどのように西東京ボランティア・市民活動センターとつながっているのか。ホームページを見るだけで終わってしまうともったいない。

事務局：「参加したい」の項目の中には、いくつもの小項目が入っている。現在の報告書では、相談内容の属性分類が相談実態と合っていないので見直しをしていきたい。ホームページを見た人とのつながりについては、相手から何らかの連絡をいただかないとつながりは作っていけないのが現状となっている。

委員：コーディネートの内容について、細かな内容を伺いたい。

事務局：年間を通して保育の依頼が多い。ご紹介する人数も多くなっている。

委員：保育は特定のグループが多いのか。個人の申込みはあるのか。

事務局：自主的に若いお母さんたちで講座を開くグループからの依頼が多く、1～3 歳児の見守りで、少なくとも 3～4 人のボランティア依頼がきている。

委員：3～4 人のボランティアで何人の子どもを見ているのか。

事務局：基本的に月齢の低い子どもには 1 対 1、それより大きい子どもには 1 対 2～3 くらい、全体で 3～4 名のボランティアで活動することが多い。

委員長：西東京を含めた各市のボランティアセンターの歴史は古いと思うが、活動団体との関係はどうなっているのか。

事務局：他地区のボランティアセンターでは、活動団体の登録制をとっているところが多い。

西東京では、活動団体は登録制をとっていない。西東京ボランティア・市民活動センターとして、活動状況の把握をして、連携、連絡をとれるようにリストを作成するに留めている。活動団体が登録することによってどのようなメリットが得られるのか、西東京ボランティア・市民活動センターとしてメリットを提供できるのかという視点で考えてきた。登録する、しないに関わらず、きちんと活動団体に門戸を開いて、西東京ボランティア・市民活動センターを活用してもらおうというスタンスをとっている。活動団体の状況把握のため、職員が情報を集め、年1回市民活動団体の状況調査を行っている。

委員長：西東京ボランティア・市民活動センターができてから活動団体ができてきたのか、その逆なのか。

事務局：活動者が先において西東京ボランティア・市民活動センターができてきた。昔は「婦人会」などもボランティア活動を行っていた。団体の活動を支援するために西東京ボランティア・市民活動センターが立ち上がってきたと思う。

委員長：西東京市市民協働推進センターは、どのような対応になっているのか。

事務局：西東京市市民協働推進センターは、完全な登録制をとっている。登録しないとサロンコーナーの予約ができない仕組みになっている。

委員：個人のボランティアの登録について伺う。毎月ホームページアクセス者の7%が「参加したい」のページを開いていることは、数が多いと感じているが、ホームページを開いてくれた人がボランティア登録情報の画面にたどり着くまでの道のりが長いとの話があった。アクセスした方たちに登録してもらえれば、新規登録者が増えると思うが、なんとか登録につながるようにしてもらいたい。

委員：ホームページから登録はできるのか。

事務局：そのままクリックしたら登録という形にはなっていない。メールの申し込みや登録用紙の送付などをしてもらわないと西東京ボランティア・市民活動センターとはつながらない。ご本人の来所を基本としていて、登録手続きの時に活動に関するお話をするようにしている。

委員：新規でボランティア登録の申込みに来る方は、ホームページを見て来ているのか。

事務局：なぜボランティア活動をしたいのかと質問はしているが、ホームページを見てきたという方は少ない。今は「夏！体験ボランティア」があるため、ホームページを見ている人も増えている。今後もホームページに関するPRをすすめ、多くの方に見てもらえるようにしていきたい。

2. 審 議 事 項

(1). 2013年度第11回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録(未定稿)について

委員長：会議録の表記方法については、見やすいように項目をまとめてもらいたい。

※会議提出資料に不備があったため、再度運営委員に資料を送付し、7月17日までに内容を確認の上、2013年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>につ

いて、〈確定稿〉にすることを確認する。

3. 協 議 事 項

(1). 平成 25 年度事業「今後開催する講座」について

事務局より、資料に基づき説明を行なう。

委員：5月の講座では、参加者が少なかったとのことだが、講座と銘打つと硬すぎる感じがする。体験や催し物と一緒に企画し、勉強する部分も取り入れながらやるくらいが適当かなと感じている。ハードルは高くしない方が良いと思う。一日で勉強をするよりは「帰るころには何かできそうかな」と感じてもらえるくらいの方が良いのではないかな。

委員：毎月開催できるのであれば、1回につき2～3人の参加でも、トータルすれば、年で24～25人になると思う。グループでの活動を意識するのなら、体験を取り入れていけば一体感が得られるので良いのではないかな。

委員：「専門的に勉強して活動したい」という方と「ちょっと出かけてお手伝いできることが見つければ」という方がいる。何を望んでいるのかによって分けて考えてみると良いのではないかな。自分でもできるかなと感じてもらえることが大切。実際に体験できたり、もっと幅広くいろいろなボランティア活動を紹介できると良いのかもしれない。

委員：具体的にこれをやりたいという方は、専門的な学習も受け入れてくれるが、漠然とボランティアやってみようかなという方もいる。なんとなくボランティアをやってみようという方には「ボランティアとはこんなもの」くらいの内容で、ボランティアの色を出さなくても良いのではないかな。別の企画で集まった時に働きかけるくらいでも良いようにも思える。

委員：積極的でない方は多いと思う。やってみようかなではなく、行ってみようかなという企画があると良いのではないかな。

委員：ボランティアなので、あまり負担にならない方が良い。そもそも、やってもやらなくても良いものなのでその程度で良いのではないかな。地域の育成会の中でも、活動がどうしても割り当てのようになる。「不審者がいるのでパトロールしよう」などの提案でも、それが受け入れられる人と強制と感じてしまう方がいる。ボランティアの難しさはあると思う。自分でやってみようという気持ちをつなげていかないとうまくいかない。

委員長：ボランティアの登録増のためには「ボランティア登録キャンペーン」をやらないといけないと思う。毎月開催してみてもどうか。どうしたら登録ボランティアになることができるのか。カードをもらって、ボランティア活動の基本を確認して、そのルールを守って活動してもらおう宣言をしてもらおうなど、そうすると認定するようにする。まずは「登録ボランティアになろうキャンペーン」の仕組みをつくってはどうか。先日、埼玉県の三芳から講師の要請があった。高齢化・過疎化の中で、一人暮らしの方が増えている。見守り活動を進めるにあたって、福祉新聞を作って配布したいので、そのノウハウを教えてもらいたいという依頼であった。具体的な活動があれば、関心のあ

る方が集まると思う。ボランティア活動というと幅が広い。夏！体験ボランティアは、基本的には将来の人材育成につながっていると思われる。一般のボランティア養成とは違うと思う。高齢者向けのボランティアの促進・子育て世代・仕事をしている人など、一緒に企画では考えられない。小さなくくりで実施してはどうか。また、活動報告でも、どの世代のボランティアが何人集まり、何の活動をしたなどの資料があっても良い。時間はかかると思うが、計画的に進めてもらいたい。今年の「ボランティアはじめて講座」は2回実施になっているが、毎年2回なのか。

事務局：ここ数年は、年に2回実施してきた。

委員長：前は参加者が少なかったとのことなので、対象者を絞ったテーマで実施してみても良いのではないかと。

事務局：今年度は広く声掛けを行い、講座後にスキルアップ講座を催す計画であった。活動を絞って講座を持つと、活動に直結することがあるが、今年は参加者を絞らずに行ってきた。キャンペーンについても、今後の事業での取り入れ方を検討したい。

委員：「夏！体験ボランティア」のチラシの裏面は具体的なボランティア活動の内容が書かれていて分かりやすい。

委員：活動を限定すると一部の人しか来なくなると心配されていたが、実際はその逆で、誰でも良いからという声掛けは参加者が少なくなる。この呼びかけは私に対してではないと感じてしまう。テーマを絞った方が「私のためのものだ」と参加する傾向が高い。テーマを狭めた方が人は来るとするのが鉄則になっている。

委員：テーマを絞りながら、実践を取り入れ、学習内容を入れていくくらいのボリュームが良い。

委員：参加対象を狭めるか、活動内容を絞るのかは、よく考えた方が良い。

委員長：ボランティア活動の原則は「楽しく」ということなので、職員が楽しく感じないと人は集まらないと思う。

委員：参加者が、楽しく意見交換ができれば良いと思う。

委員：視覚障がい者が外出する時の付き添いボランティアは、西東京市にはいるのか。

事務局：障がい者の外出時の付添いの依頼は届いている。障がい者に対するボランティア活動については、ボランティア活動の範囲について様々な意見がある。

委員：視覚障がい者の依頼は、傾聴ボランティアのようなニーズはないのか。

事務局：現在視覚障がい者の方からの依頼は1名のみ。ガイドヘルプの養成講座は計画していない。

事務局：視覚障がい者のガイドヘルプについては、ボランティアに依頼するのではなく、有償の制度を使っている方が多いと思う。

事務局：先に紹介した地域では、その地域の中にガイドヘルプボランティアグループがあり、定期的にボランティア養成を行っている。

(2). 平成25年度事業「登録ボランティアを増やす取り組み」について

事務局より、資料に基づき説明を行なう。

委員長：ボランティア登録をしてもらうための働きかけを行う対象者についての検討というこ

とか。

事務局：対象を絞って声をかけてきたことが、ここ数年なかったためご意見を伺いたい。

委員長：ボランティアの広報紙の配布も検討するのか。

事務局：広報紙や講座の案内についても検討していきたい。これまでは、一つのチラシで広く市民に働きかけるようにしていたが、同じ講座の案内でも、働きかける対象によって声掛けの方法を変えても良いと考えている。

委員：どのような講座をやるかによって、内容を絞るか絞らないかが違ってくると思う。

委員：「夏！体験ボランティア」のチラシの内容説明のようなものなら、すべての方が対象になると思う。これがボランティア活動だという説明があり、わかりやすい。

委員：育成会のメンバーなどは、既にボランティア活動をしているが、「こんな活動ならやってみても良いかも」と思ってもらえるような働きかけがあると参加が期待できる。

事務局：チラシの置き場所ではなく、内容の問題だと思う。

委員：育成会にもボランティアの要請はいろいろくるが、各地区でどの程度会員に降ろしているか、またその方法などはわからない。全体会で説明はするが、そのことについて職員が話してくれると効果はあると思う。

事務局：チラシについては、期待をしない方が良いかもしれないと感じている。それよりも登録キャンペーンを組むような活動に力を入れる方が良いかもしれない。

委員：西東京ボランティア・市民活動センターで作っている「ボランティアはじめてみませんか」のパンフレットは分かりやすい。説明もわかりやすいし、申込み用紙もついている。

事務局：チラシを配架することで、広報しているという時代は終わったと思う。

委員：やはり公民館などに出向いて「ボランティア募集しています」と声に出すことが必要だと思う。しかし、「ボランティア始めませんか」とただ働きかけるだけでは、「登録したら大変なのかも」と思われるかもしれない。あの人だったら信頼できるという方と一緒に宣伝しないとイケない。初めてのことについては、心配で怖いと思う。そこで知った顔があれば、安心して話を聞いてくれるのではないかな。

委員：市民まつりなどではPRしないのか。

事務局：お祭りの雰囲気の中だけでは、ボランティアの宣伝はなじまない。

委員：「ボランティアのつどい」では、ボランティア活動に関する紹介や相談の窓口はあったのか。

委員：入り口にコーナーを設けていた。相談も数件あった。

委員：人が来るのを待つのではなく、出向いて行って窓口をひらくことが大事。なかなか自分で登録しに行くのは面倒くさいと思う。

事務局：11月に「介護の日」のイベントがある。介護のイベントで何故ボランティアなのかとの声もあるかと思うが、介護関連の活動もあるので、ボランティアの相談コーナーをもっても良いのではないかな。そういう機会を利用するのは良いと思う。

委員：社会福祉協議会のイベントなどで出張窓口を開いてみると良いと思う。

委員長：「登録ボランティアになりませんか」と唱っていくと良いと思う。登録ボランティア自体を一つの資格のようにとらえ「私は認定を受けている活動者」という受けとめ方をされるようにしたらどうか。

委員：チラシを配架するのであれば、たくさんの方が関心を持ってもらえるような内容を検討したら良いのではないかな。

委員長：「これがボランティアですよ」と説明するようなチラシ案内があると良い。

委員：新聞を見ていると「高齢化」の話題が必ず出てくる。ボランティアという言葉は出てきているが、その内容は一般の人には知られていない。

事務局：言葉は広まっているが、公民館の講座でも、ボランティアのテーマが上がると、「ボランティアをやらされるんですか」と警戒されることがあるという。ボランティア活動の理解が進むように、可能な範囲で説明をしていきたい。

委員長：「俺にもできるんだ」「やってもいいんだ」「やらされるのではないんだ」と感じてもらえるように働きかけてほしい。

委員：商品を説明されても、注文書を出されると腰が引けることが多い。ボランティア活動も、説明されて納得できるように、信頼できる人がいると良い。

事務局：これまでそのようなアクションができていなかったと思う。

委員：学生ボランティアなどにも参加してもらい、キャンペーンを行うことも良いのではないかな。

委員：「こそだてフェスタ」には参加していたのか。子育て世代には働きかけられると思う。

事務局：これまでは参加していなかった。

事務局：今回のご意見は、課題としてまとめていきたい。3つ目のテーマ「広報紙」についても、検討を継続して行なっていきたい。次回の運営委員会には、次年度の事業についても話していくことになるので、また、ご意見を反映させていきたい。

4. そ の 他

(1). 次回運営委員会開催日程について

日 時：2013年9月10日（火）18:30～20:30

会 場：田無総合福祉センター 4階第3会議室

以上をもって、2013年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し散会する。